

当院の他職種・医療連携による入院患者の口腔管理を ベースとした周術期口腔機能管理の現状について

あらかき けいいち

【講師】新垣 敬一氏 (沖縄県立中部病院歯科口腔外科部長)



【略歴】

1988年3月 昭和大学歯学部 卒業
1988年6月 琉球大学医学部歯科口腔外科 入局
1989年4月 琉球大学医学部 医学研究科 大学院入学
1993年3月 琉球大学医学部 医学研究科 卒業
4月 中部病院 歯科口腔外科 嘱託医
1997年4月 琉球大学医学部 助手
2003年6月 琉球大学医学部 講師
2013年3月 琉球大学医学部歯科口腔外科 退職
2013年4月 沖縄県立中部病院歯科口腔外科部長
沖縄県立病院 病院事業局主幹 歯科口腔外科 統括担当
資格：日本口腔外科学会専門医/指導医、日本小児口腔外科学会指導医/代
議員、日本外傷歯学会認定医/指導医/理事、緩和ケア 研修終了

【講師からのメッセージ】

誤嚥性肺炎の予防、入院期間の短縮などを目的とした入院患者への口腔ケア（以下入院口腔機能管理）の普及を背景に2012年、医科歯科連携医療の始まりとして周術期口腔機能管理が保険導入され病院経営においても寄与することが明らかになっています。しかし現状は入院口腔機能管理の普及に日々努力している中、周術期口腔機能管理依頼の増加は、マンパワーの問題もあり病院の質、経営面において両立させることが難しいのも周知の事実であります。特に周術期口腔機能管理の特性から歯科部門単独の医療になり易く、チーム医療としての統一した概念、情報共有という面で劣ることも想定されます。そこで当院では従来の口腔衛生不良患者の口腔管理依頼箋から、入院時に看護師が全ての担当患者の口腔内を評価し当科との連携を行ういわゆる専門的口腔機能管理と継続的口腔機能管理の連携を戦略として実行してきました。これにより他職種連携間の概念が統一され、入院患者への早期口腔評価と介入の重要性が高まりました。その結果、口腔機能管理の導入がスムーズとなり、口腔不衛生状態や重篤な口内炎が少なくなったことで入院患者のQOLの向上に繋がり、ひいては周術期口腔管理の充実、経営的な面でも寄与していることがわかりました。講演では、これまでの入院患者への口腔ケアの普及活動を起点とした現在の口腔機能管理と周術期口腔機能管理の現状について詳細に述べてみたいと思います。

【日時】5月19日(日) 14:00~16:00

【会場】沖縄県市町村自治会館4階会議室 [那覇市旭町 116-37 / TEL 098-862-8181]

【会費】会員無料 / 非会員8,000円(当日入会の場合は無料)

【返信先 FAX: 098-832-4482】

定員に達し次第、申込受付終了となりますので
お早めにお申し込みください。

TEL _____

医院名 _____

会員氏名 _____

参加数 _____

名 _____

沖縄県保険医協会事務局

〒902-0078

那覇市字識名 1195-1

大城産業ビル 106号

TEL: 098-832-7813 / FAX: 098-832-4482